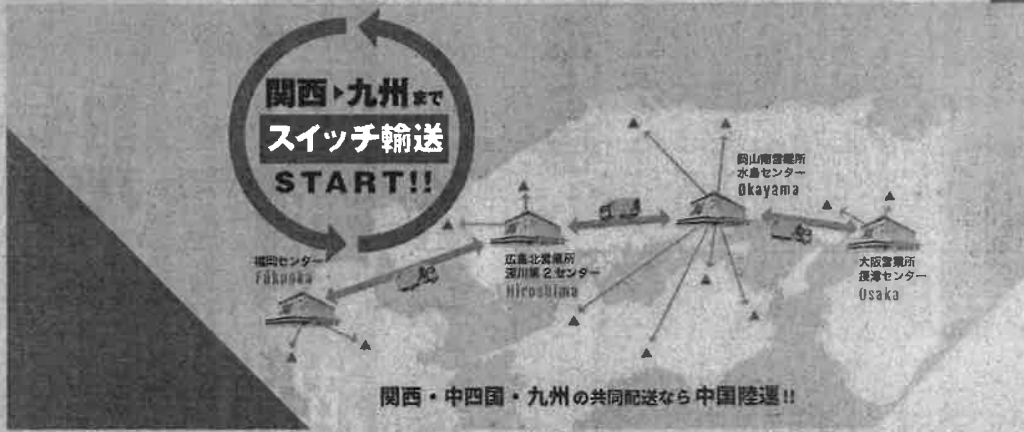


ホームページでもトップ全面に打ち出している



関西・中四国・九州の共同配送なら中国陸運!!

## カゴ台車導入し時短

【広島】中国陸運（西尾義輝社長、広島県廿日市市）は食品の共同配送において自社トラックによるスイッチ輸送を開始するとともに、自動配車システムとカゴ台車を導入するなど効率化・労働環境改善を進めている。スイッチ輸送は今夏からスタート。同事業は拡大傾向にあり、大幅な売り上げ増加を見込んでいる。（矢野孝明）

輸送エリアは西日本で、荷物の中継拠点として、大阪府、岡山県、広島県にある自社センターと、福岡県の協力会社センターを活用している。大阪から福岡まで同じトラックを走らせるのではなく、東西の移動は、大阪―岡山、岡山―広島、広島―福岡と、主要都市の拠点間のみ限定。各拠点

で荷物を別のトラックに積み替えた後、最終目的地まで運ぶ。

南北では、山陰地方は岡山と広島の2拠点から、四国方面へは岡山のセンターから、それぞれ直配。西日本全域で毎日、2層式・パワゲート付きの専用トラック20台が稼働している。主な顧客は食品卸会社な

どのベンダーで、核となる4社のほか10社程度がスイッチ輸送を利用。チャーター便や宅配便になじまない中・小ロットの荷物をメインにローコストで請け負い、外食チェーン店舗など250〜300カ所への末端配送まで行っている。

複数の顧客から多様な荷物を集荷し、拠点間で中継しながら末端配送までスムーズな物流を実現するためのツールとして、最新の自動配車システムを採用。物量や輸送ルート、配送先など必要な情報を入力すると、無理の無い運行計画をコンピューターが短時間で

提示する。

配送先の追加などがあつた場合も、情報を更新するだけでダイヤを再編。実際の道路交通とほとんど差異が無く、ドライバーの労働時間の管理にも役立つとい

# 食品共配でスイッチ輸送

## 配車システムで効率化

### 中国陸運

また、荷役を効率化させるため、カゴ台車300台を導入した。バラ積みで約1時間かかっていた作業が、カゴ台車積みに移行することで、約10分と大幅に時間を短縮。20分以上要していた納品時間が半減できるケースもあり、同じコスト比較で1日2時間以上の時短に成功した例もある。

カゴ台車は従来から活用していたが、今後も追加投入していく計画。

西尾社長は「共配とスイッチ輸送を組み合わせたシステムは、新たな物流インフラのようなもの。ベースとなる物量を確保し、輸送ルートを構築しているのが、少量多頻度化するニーズに低価格で対応できる。ドライバーの負荷軽減にもなり、労働力対策にも有効だ」と説明する。

スイッチ輸送による売上高は7月のスタート当初は月間3千万円だったが、2019年9月期には、同事業の年間売上高が7億円以上になる見通し。20年9月

期は12億円を目指し、グループ会社を含む物流事業全体の年間売上高40億円を視野に入れている。

